

待望の新艇庫

飛躍の場「AQUA未来」
—新たな歴史の幕開け—

『黎明に漕ぐ』

茜さす黎明の諏訪湖はすがすがしい
遠く朝焼けに染まる霊峰富士、湖面にのびる神々しい朝陽

湖は知っている

厳しい練習に耐えた日々、流したたくさんの悔し涙を

そして、栄冠に輝いた君の笑顔も

母なる湖は語りかける

「努力と精進こそが栄光への近道」

「さあーいこう！」

半世紀 間もなく

若者の汗と涙と栄光見守る

1978年（昭和53）の第33回長野国体（やまびこ国体）で下諏訪町が漕艇競技会場に決まったことで、諏訪湖に長野県唯一のボートコース「下諏訪町漕艇場」が整備されたのが1976年（昭和51）7月のこと。

以来、間もなく半世紀を迎える。母なる湖に抱かれたこの漕艇場で多くの若者が汗を流し、青春の一頁を記しながら新たな世界に出発（たびだち）。世界で活躍する選手も誕生している。幻となったモスクワ五輪（1980年）代表の故岩波健児さん（岡谷市出身）、シドニー（2000年）、



「琵琶湖周航の歌」誕生100年記念の全員合唱

アテネ、北京、ロンドンの五輪4大会に連続出場した岩本亜希子（現姓片岡）さん（諏訪市出身）も諏訪湖育ちのオリンピックだ。2人の存在は多くのボート愛好者に夢や希望を与え、練習に励む中・高校生の目標となっている。

漕艇場の原風景も大きく様変わりした。下諏訪町は、水上スポーツの拠点として、艇庫を駐車場用地に移転。災害時に船で物資や人の輸送拠点となる防災護岸機能を併せ持った施設として整備した。完成を機に漕艇場一帯を「下諏訪ローイングパーク」と改称し、新艇庫の愛称を「AQUA（アクア）未来」と命名。2020年4月に供用を開始した。まん延する新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底する中で一時閉鎖されたこともあったが、今では若者の元気な姿が戻り練習にも熱が入っている。新たな施設が有意義に活用され飛躍の場となることに大きな期待がかかる。

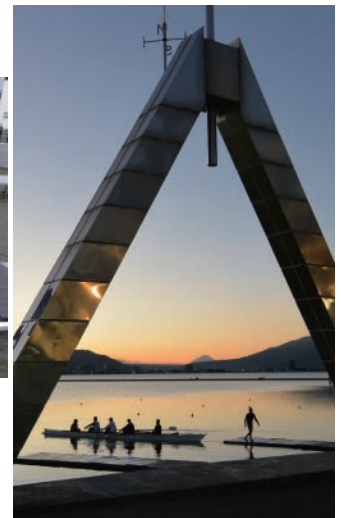
旧艇庫は大規模改修され、町のトレーニング施設「健康ステーション」として運用開始している。



ドローンによる「AQUA未来」空撮(下諏訪町提供)



新しくなった棧橋



黎明の諏訪湖に漕ぎ出す

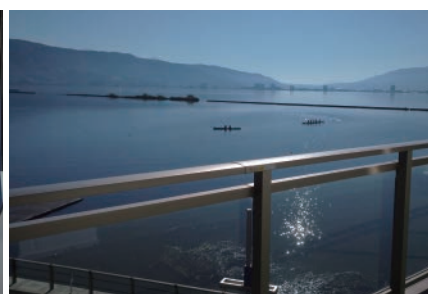
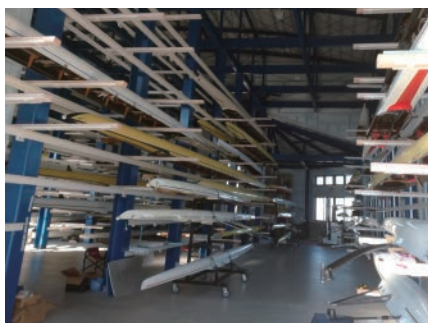


「AQUA未来」建設概要(町資料抜粋)

- ・敷地面積 2701.22㎡
- ・水上防災拠点・艇庫棟 鉄骨造り2階建て
建築面積845.69㎡、収容艇数135艇
- ・工期 令和元年6月～令和2年3月
- ・総工費 3億4,650万円
(足湯・外構・栈橋・通信工事等含む)



新艇庫開場後、初大会の第39回下諏訪レガッタ



屋上の展望テラス



「今では懐かしい」旧艇庫

旧艇庫概要 (建設当時、町資料抜粋)

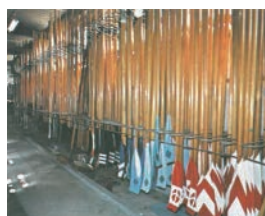
- ・艇庫 477.87㎡ (シングルスカル20艇、
ナックルフォア25艇、シェルフォア10艇)
- ・錬成の家 433.75㎡ (事務室、合宿室など)
- ・工期 昭和51年4月～同7月
- ・漕艇場含む総工費 6,350万円



エイトを旧艇庫から諏訪湖に



下諏訪レガッタ表彰式の様子。
ここに「AQUA未来」が建設された



旧艇庫外観、内部、ボートコース (町資料から)